

表 1. プロセスレコード (受け持ち 3 日目)

状況説明：午前中に、病棟で話していたとき。

取り上げた理由：A さんの予想外の行動に動揺し、気になっているから。

患者の言動／様子	そのときの学生の気持ち	学生の言ったこと／行ったこと	やりとりの意味
<p>①お昼の話をしている。</p> <p>③「お菓子があつたのよ」と言つて、ベッドに置いてあるお菓子の入つた袋を触る。</p> <p>⑥「いいのよ、いいの」</p> <p>⑨「だいじょうぶよ。食べちゃいなさいよ」</p> <p>⑪「だって、一緒じゃなきゃいやなのよ。みゆきちゃんが食べないならいやよ」と少し大きめの声で言う。不きげんに黙る。</p> <p>⑭少し時間がたつと（数秒間）「お昼はなんだろうね」と、またいつもの調子で言う。</p> <p>⑰「ミートスパゲッティがいいの」と食べ物の話になる。</p>	<p>④あ、そんなつもりじゃなかつたのに。いけない。</p> <p>⑦きちんと、断らないといけないよな。</p> <p>⑫えつ、こんなこと言われるなんて……。どうしよう、怒ってしまったよ。うだ。どうしよう。</p> <p>⑮あれっ。いきなり話がかつた。どうしてなのか。気をつかつてくれたのか。</p>	<p>②「なんか、おなか、すいてきますよね」</p> <p>⑤「あ、そういうつもりじゃないんですよ。すみません」</p> <p>⑧「すみません、でも、私、学生なので、もらえないんですよー」と少しあせて言う。</p> <p>⑩「本当にすみません。もらえなくて……」。ますますあせる。</p> <p>⑬「そうですか……」と、少し黙る。</p> <p>⑯「きょうのお昼ですね。なんでしょうかね。なにがいいですか？」</p>	<p>⑧私は学生なので無理ということをはなれば納得してもらえらると思つてた。</p> <p>⑫何度も断るのは心苦しいと思つたが、どうにか言おうとした。しかし、A さんが予想外の反応をみせ、不きげんになつたことにとつても動揺してつる。</p> <p>⑭A さんは、怒つたような態度から、突然戻り、私は再びとまどう。</p>
<p>全体のプロセスからわかつたこと／わかつたこと</p>			
<p>A さんの予想外の反応に、とつても動揺してしまつた。怒らせてしまつたかと思つくと、とまどう。やはり関係がわるくなるのはこわい、嫌われるのはこわいと思つてしまふ。この件のほかにも似たようなことで、私と A さんの意見がくい違い、要望を受け入れなかつた私に対して怒つたような態度をとつてた。</p> <p>また、怒つたときも怒つたままプイとしてしまふのではなく、突然、話題がかわつたりするのにもとまどうしてしまふ。A さんは「一緒に」ということを何度か言うので、私もそうしたいと思ふのだが、なかなか話やタイミングが合わないことも気になつてつる。</p>			

表2. プロセスレコード (受け持ち4日目)

状況説明: シーツ交換をするとき。

取り上げた理由: はじめは学生にやれと命令していたが、あとで一緒にやることができたので印象に残ったから。

患者の言動/様子	そのときの学生の気持ち	学生の言ったこと / 行ったこと	やりとりの意味
<p>①シーツ交換をすることになっていたが、ベッドサイドに座り込んでいた。</p> <p>③「そうよ、シーツやるのよ。やってちょうだい。私、疲れちゃったのよ。ほら、そっちよ」と、とても不きげんで強い命令口調で言った。</p> <p>⑥「やってちょうだいよ。ほら、それ(ベッド柵)外すのよ」</p> <p>⑨「……」。無言のまま、不きげんそうに動きはじめ、シーツ交換をやりだす。</p> <p>⑫「そうねえー、はあ、疲れちゃったわ。これでいいのよ」</p>	<p>④えっ、いきなり命令だ。なんでこんなに怒っているのか。私1人にやれと言っているようだ。</p> <p>⑦これで私が1人でやっても……。一緒にやればいいのに。なにを言え状況がかわるのだろうか。</p> <p>⑩おっ、やりはじめた。絶対やってくれないわけじゃないのか。</p> <p>⑬疲れているようだ。いまは離れて、またあとで来よう。</p>	<p>②「Aさん、こんにちは。シーツ交換するのですよね」</p> <p>⑤「そうですか。じゃあ、一緒にやりましょうよ」</p> <p>⑧「私も手伝いますけれど、私、これやったことないんですよ。一緒にやって教えてくださいませんか」</p> <p>⑪2人でシーツ交換をやる。「あー、終わりましたね。2人でやると早いんですね」</p> <p>⑭「少し、疲れましたね。じゃあ、またあとで来ますね」</p>	<p>③いきなり命令口調で驚いた。いまは不きげんなときなのと思った</p> <p>⑦Aさんは自分でできる人なのだから、一緒にできないかと思い、言い方をかえてみた。</p> <p>⑪2人で一緒にやったことを共有したいと思った。</p>
<p>全体のプロセスからわかったこと/わからないこと</p>			
<p>Aさんはシーツ交換を1人でやらされるのがいやだったようだ。この場面は本当にきげんがわるく、口調もおだやかなときは別人のようだった。きげんがわるくなることはもう知っていたから、前ほど動揺することはなかったが、これほど不きげんになる“意味”とはどういうものかよくわからない。</p> <p>あのような命令口調で言われたら私もいやな気分になるし、いまそう感じたことを伝えてみたらと言われたけれど、あのような状況で「いま私はこう感じた」というようなことを言うのはむずかしいと思ってしまう。取り付く島がないという印象だ。その数十分後に行ったときは、とてもきげんがよかった。これはAさんの性格なのか。私はどのように接していけばいいのか、と思った。</p>			

表3. プロセスレコード (受け持ち5日目)

状況説明: 実習時間が終わるころ、あいさつを兼ねて病室を訪れたとき。

取り上げた理由: 少しは自分の気持ちを伝えられたから。

患者の言動/様子	そのときの学生の気持ち	学生の言ったこと / 行ったこと	やりとりの意味
<p>①Aさんはベッドに横になっている。</p> <p>③「いいわー」</p> <p>⑥「え? うん?」。笑顔はなく真剣な表情になる。</p> <p>⑨笑顔なく、真剣な表情のまま、「うーん、昼……。ない。なにもない」</p> <p>⑫「うん、そうなのよ…。おだやかになる。</p> <p>⑮「一緒に来てくれるの? うん、一緒に行こうよ。カラオケよ」</p>	<p>④いまはきげんがいいようだ。お昼過ぎにとてもきげんがわるかったことを聞いてみようか。</p> <p>⑦怒り出すだろうか。少し不安だが……。</p> <p>⑩覚えてないのだろうか? なかったことにしようとしているか? 私がはじめて「きげんがわるかった」と言ったので、少し驚いたのだろうか。</p> <p>⑬怒りだしたりはしないようだ。明日は一緒に参加したいことを伝えよう。</p>	<p>②「失礼します。いま、いいですか」</p> <p>⑤「私ね、ちょっと気になっていたのですけれどね。Aさん、お昼すぎくらいとき、なんだかきげんわるいなあって思ってたんですよ」</p> <p>⑧「うん、ちょっと、きげんがあまりよくないかなって、気になっていたんですよ。なにかあったのかなって」</p> <p>⑪「そうですか。わかりました。……明日はOTに参加されるんですよね」</p> <p>⑭「私、一緒に行ってもいいですか?」</p>	<p>⑥笑顔が消え、表情かわったので、私も少し迷ったが、聞いてみることにした。</p> <p>⑨今回、私がきげんのわるさについて言ったのは、はじめてだったので、Aさんも動揺したかと思い、しつこく聞くのはやめようと思った。</p>
<p>全体のプロセスからわかったこと/わからないこと</p>			
<p>私は、昼以降、Aさんが不きげんそうにしていたのが、気になっていたし、なんなのだろうと思っていた。でも、考えてみれば、Aさんは私がそう感じていることはおそらく知らなかっただろうと思う。やっぱり、言い方とタイミングとか、詳しいことはわからないけれど、気になっていたことを行ってみることにした。</p> <p>Aさんは「なんにもない」と言葉少なめに言っていたが、今回は私の感じたことを伝えた段階でこの話は終わりとなった。Aさんがなにを考えていたのかわからないし、本当になにかあるかもわからなかったが、それを私がわかることが絶対の目的ではないと思うし、私自身もいきなり無理はできないので、少しずつ慣れていけたらと思う。</p>			

表4. プロセスレコード (受け持ち6日目)

状況説明: 午前中に、入院後はじめてOTに行ったものの、途中で帰ってくることになり、午後、ベッドサイドでそのことを話していたとき。

取り上げた理由: 前のやりとりとは違うやりとりになって、印象に残ったから。

患者の言動/様子	そのときの学生の気持ち	学生の言ったこと / 行ったこと	やりとりの意味
①Aさんはベッドに横になっていて、私は椅子に座って話していた。	②おだやかに話している。午前中のOTのこと、聞いてみようか。	③「Aさん、午前中、一緒にOT行きましたよね。どうでしたか？」	
④表情がかたくなり、笑顔もなしに「うん、よかったわよ」とぶっきらぼうに言う。	⑤全然、よかったようには聞こえないけれど。本当によかったのか？よかったわけがないよな。	⑥「よかったですか？」	④よかったと思っているようには思えなかったなので、聞き返した。
⑦「うん……」	⑧やっぱり。よかったわけがないよな。私もそうだし。	⑧「私もね、今日、はじめてOTに行ったんですよ。まわりはみんな知らない人だし、なにをするかもわからないし、まわりの方は慣れているようだったけど、私はなんだか、あまり居ごちがよくなかったんですよ。私はね」	⑨アドバイスをもらったように、自分も何を感じたのか話すことは大切だと思い、真剣に話しはじめた。
⑩少し表情が変わり、はっきりした感じで、「そう」と言う。	⑪なにか、食いついてきた。	⑩「そうですよ。はじめてのところだったしね……。Aさんはどうだったかなってと思って……」	⑩私はこうだったけど、Aさんはどうだったかというように、もう一度聞いてみた。
⑬「なんかね、みんなに帰れって言われているような気がしたのよ」とボツツと言う。	⑭少し驚いた。	⑬「そうだったんですか。でもはじめてのところは誰でも居づらいですよ。同じですよ。でも、Aさんに帰ってほしいなんて、みんな思っていないと思いますよ。私はそう思います。」	⑬その理由は私も少し理解できた。それは伝えようと思った。
⑯「そうかしらね」		⑯「うん、少しずつ、慣れていけたらいいですよ」	

全体のプロセスからわかったこと/わからないこと

なんで?と思ったことはやっぱり聞いてみないとわからないし、疑問に思ったことはAさんに直接聞いてみるようになった。今回はそれに加えて、「私はこう感じたんです。」と言うことにしてみた。意外な返答で私は少し驚いたが、私が自分の体験を少し長く語ったので、Aさんも驚いたかもしれない。同じように居づらい気持ちだったと知って安心したかもしれない。Aさんの反応をふり返ってみると、わるいイメージのやりとりではなかったように思う。